

- ・将来的な生存維持を考える際の行動の 1 つとして貯蓄があると思うのですが、「貯蓄」という概念が世間一般に広がり始めたのはいつ頃なのでしょう？
- ・講義で扱ったような考え方を展開した経済学者は、弱者と強者のうち弱者なのでしょう？
- ・話が少しそれるかもしれませんが、なぜ先進国であるアメリカは福祉が充実していないのか気になりました。
- ・モラルエコノミーはなぜモラルとつくのかが気になりました。モラルと聞くと道德という日本語が思い浮かぶのですが、生存を重視するのであれば他の言葉使いの方が腑に落ちる気がしました。
- ・マルクスも人を類的存在と定義し社会の中にあるからこそ人間が人間であると述べていたと思いますが、ホブハウスの思想と関係性はあるのですか。
- ・新自由主義の生存は個人の権利だという考えはネオリベリズムの自助という考え方と一見似ているように思えるが、前者が自発性の尊重から来ていながら自由放任の限界を考え正義としての公的介入を想定しているのに対し、後者が自己責任を押しつける形で公的介入を行わないという点で大きく異なると思った。
- ・生産者余剰についてどうしても「イヤさ」という表現が引っかかってしまいました。消費者余剰とあわせて最終的に生産者余剰を気分的なもうけと考えるためには確かに「イヤさ」という表現は妥当かもしれませんが、「払っても良い P」のようにより定量的なものはないのかと感じてしまいました。実際にミクロでは「費用」と考えるといったこともあったと思うのですが、マーシャルは「費用」ではなく、仕事に対する面倒さと捉えたのでしょうか。
- ・市場は不完全情報を持つ個人の相互作用の場で新しい知識が生まれる場だという、ハイエクの考えはイノベーションに通じるように思えた。
- ・先生の声がすごく聞こえやすくなった。音量調節の手間がなくなったのでうれしい。